７／２６（金）の発表

【道庁プレスリリース】

報道発表資料の配付日時　７月26日(金)１８時００分

発表項目 （行事名）	営農技術対策号外 「予想される大雨に備えて」について	
記者レクチャーのお知らせ	(実施日時)	発表者 発表場所
概要	札幌管区気象台によると、７月27日から28日にかけて、日本海側南部と太平洋側西部を中心にまとまった雨が降る見込みです。 このため、農作物等への影響が懸念されることから、「予想される大雨に備えて」を別添のとおり作成し、各（総合）振興局等関係機関・団体に通知したのでお知らせします。 北海道の営農技術対策（農政部生産振興局技術普及課ホームページ） https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/gjf/gijyutu/183743.html	
参考		

報道（取材）に当たってのお願い		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	(場所)

担当 （連絡先）	農政部生産振興局技術普及課（担当者：山上首席普及指導員） ＴＥＬ　ダイヤルイン　０１１－２０６－６４２８　内線　２７－８０３ ＴＥＬ　公用スマホ　０１１－５８５－６１０１　内線　３０４２６

R6 営農技術対策(号外２)

予想される大雨に備えて

令和６年（2024年） ７月26日
北 海 道 農 政 部

札幌管区気象台によると、７月27日から28日にかけて、日本海側南部と太平洋側西部を中心にまとまった雨が降る見込みです。このため、農作物等への影響が懸念されますので、今後、最新の防災気象情報に留意し、必要に応じて次の対策を行ってください。

１ 大雨対策

１ 水田では、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い、水の流れを確保する。
２ 畑地の低地や排水不良地などで、大雨による滞水が心配されるほ場は、あらかじめスコップ等で明きょや排水溝へ排水できるよう溝を掘っておく。
３ ながいも、ごぼうでは、枕地の溝切りを行い、トレンチャー溝への雨水流入による栽培畝の陥没を防ぐ。
４ ビニールハウス・農舎・牛舎・サイロ・飼料庫等に水が入り込む恐れがある場合は、施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどの対策を行って施設への浸水を防ぐ。
また、ビニールハウス周辺の排水溝が浅くなっている場合は、ハウスのすき床面より低く掘り下げるなどの排水対策を講じる。ビニールハウス内のボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移し、浸水を避ける。
５ 暗きょの水こうを解放する（事前に排水口付近を点検し、ゴミ等は除去しておく）。
６ 浸水の被害が想定される貯蔵施設は、収穫物を浸水の危険がない場所に移動する。
７ 作物が大雨により損傷した場合は、細菌性の病気が発生する恐れがあるため、防除ができるように事前に薬剤を準備をしておく。
８ 堆肥場や尿溜に雨水が流れ込み、あふれ出す恐れがある場合は、土盛りなど行い河川への流出を防ぐ。
９ 牧草地等に仮置きしているロールベール乾草やラップサイレージは、滞水の恐れのない場所へ移動する。
10 氾濫する恐れのある河川周辺への放牧は避ける。放牧する場合は、目の届く放牧地へ放牧する。
11 水を吸って発熱する生石灰や、漏電を引き起こす電気コードなどは、雨の当たらない場所や水がかからない場所に移動したり防水対策を行う。

※ 雨が強まってからの外作業は、事故等が発生する恐れがあるので危険です。
事前に準備を行い、不要不急の行動は控えてください。

２ 停電・断水対策

１ 常備している懐中電灯の電池残量の確認、畜舎内の整理・整頓の徹底により、夜間停電での突発的な人身事故に備える。特に、畜舎では必要電力量を把握し、自家発電機を手配しておく。所有している自家発電機は燃料を確認し、試運転を行っておく。また、断水に備え給水タンクを手配しておく。

お問い合わせ先 ： 生産振興局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-826）